



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5

始



日本水路誌第三卷追補第一

此記事ハ明治二十九年乃至三十二年水路部ノ精測圖記及本書發行ノ日迄ニ得タル最新ノ記事ヨリ編ス宜ク日本水路誌第三卷一一一頁九行ヨリ二四二頁マテヲ削除シ其間ニ挿入スヘシ

明治三十三年四月

水 路 部

下之關海峽 海軍海圖第一三五號ヲ見ヨ

日本内海ノ西門ニシテ海峽ノ長約七浬其可航水道ノ部分ハ濶一鏈乃至五鏈東西兩口共ニ幾許ノ淺堆岩礁アリ而シテ東口ハ串崎ト部埼ノ間ニシテ其濶約二浬ニ亘ルモ諸淺灘アルカ爲メニ水路ハ北、中、南ノ三區ニ分カル○此三水道中大船舶ノ取ルヘキモノハ北水道ニシテ其他ハ吃水ニ應シテ之ヲ取ルヘシ○該海峽東口ハ近年部埼ノ南東二浬半ノ處ヨリ幅約二浬ノ間ハ四三/四尋チ有スル五尋界ヲ以テ横斷シ又中、洲東端ヨリ南東方ニ向ヒ約二鏈ノ幅ナ有スル水深四尋乃至五尋ノ淺水ヲ以テ横斷スルヲ以テ北水道ヲ取ルモノト

雖能ク潮時ヲ利用セサル可カラス

串崎

下之關海峽東口ノ北角ニシテ其東方一鏈ノ間ハ低潮ニ干出スル岩石アリ而シテ其南方ハ相距約二_七^四鏈ニシテ約六尋ヨリ俄然二尋ニ變ス○此崎ヨリ北方ノ海岸ハ低潮ニ數浬間廣キ沙灘ヲ成シ灘上豐浦（舊長府）ノ大邑アリ

滿珠島及千珠島

串崎ノ東方ニ當リ東西ニ並フ所ノ樹島ナリ二島共ニ其南側ニ於テ二鏈以内ニ近ツクヘカラス○滿珠ハ高一八八呎ニシテ東ニ位ス○千珠ハ平頂ニシテ高八十六呎其南角ヨリ南方一鏈ニコーコート稱スル圓頂岩アリ高潮ニ沒ス而シテ此岩ノ北東方ニ又一小岩アリ大低潮ニ八呎干出ス

部崎

下之關海峽ノ東口ノ南角ニシテ角上ノハギ山ハ高三九九呎

部崎燈臺

部崎ノ北東端ニ設置ス○御影石造、圓形○回轉白色○明弧ハ東_七南_三ヨリ南及西_三ニ經テ北_七西_四マテハ紅色、夫ヨリ北_七東マテハ白色ヲ顯ス此紅白接線（北_七西_四）ニ沿テ進メハ本山洲ヲ避ケテ其南ヲ過ク○燈高ハ海面上一二三呎○晴天光達十七浬

中洲

串崎ト部崎ノ中間ニアル二座ノ沙洲ニシテ其全徑東西約一哩半其幅一鏈乃至三鏈、洲上水深一尋乃至三尋トス○洲ノ最東端ハ部崎燈臺ヨリ北北東一浬二鏈ニアリ○此洲ノ東西兩側ニ浮標ヲ置ク

中洲二浮標

東浮標ハ黑色圓錐形ニシテ籠球ヲ戴キ東洲ノ南東端ニ近ク水深三尋半ノ處ニ碇置ス是ヨリ部崎燈臺ハ南々西ニ當リ距離一哩二_七^四鏈
西浮標ハ紅色圓錐形ニシテ籠球ヲ戴キ西洲ノ南西側水深二_七^四尋ノ處ニ碇置ス是ヨリ部崎燈臺ハ南東_七南ニ當リ距離一哩二_七^四鏈

飛^{タカ}洲

其北端ハ部埼ノ北西一浬強ノ處ニアリ長約二鏈其最淺處ハ二^三_四尋○此洲ノ北端ヨリ北北西方殆ト一鏈ニ水深三尋ノ小灘アリ此小灘ノ北西方一^三_四鏈即チ金伏立標ヲ西^ノ南^ノ視ル處ニ三尋點灘アリ此二灘ノ間ハ中央水道航路ニ當ル

此洲ノ南西約二鏈ノ處ニ小沙洲アリ俗ニ洲ノ鼻ト唱フ其最淺處ハ一尋半ナリ飛^{タカ}洲浮標

鐵造圓錐形ニシテ紅黒縱線ニ塗リ紅色ノ籠球ヲ冠セル浮標ニシテ中央水道通路ノ南方約半鏈水深六尋ノ處ニ碇置ス是ヨリ部埼燈臺ハ南東^ノ南^ノニ當リ距離約一浬餘ナリ

蠣^{カキ}汎

此洲ノ西端ハ門司埼ヨリ東^ノ北相距七鏈半水深三尋半ノ處ニシテ是ヨリ東方へ約七鏈半擴延シ其水深ハ一^三_四尋乃至三尋ナリ○此洲ノ西端ヨリ五尋界

區ハ西^ノ北^ノ北約三鏈ニ達シ其外端ノ水深三尋半是ヨリ門司埼ハ西^ノ南^ノ南四^三_四鏈ニ當ル

金伏瀨

三顆ノ險岩ヨリ成リ其最淺岩上ニ挂燈立標アリ○他ノ二岩ハ立標ノ南方ト北方トニアリテ礁脈ノ全長ハ南北約一鏈ニシテ幅狹ク周圍陸界ナリ

金伏挂燈立標

此立標ハ「ヨンクリート」造圓形ニシテ黑白橫線ニ塗ル挂燈ハ不動白色ニシテ全度チ照輝シ高潮面上高二十七呎晴天光達六浬○是ヨリ部埼燈臺ハ南東^ノ東^ノ東ニ當リ距離二浬餘

注意 此燈火ハ看守員ヲ置カス故ニ萬一消滅スルヲアレハ再點ニ多少ノ時間チ費スコアルヘシ

細瀨

細瀨ハ南北一二岩ヨリ成ル其南岩ハ南細瀨ト稱シ中央水道ノ北側ニ當リ金伏

立標ノ南々西一^七鏈ニアリ其水深各二^七尋○此二岩ノ間ハ六^三尋ノ水深アリ

此瀨ト金伏立標ノ間ハ通過スヘカラス

釜床瀬

釜床瀬ハ金伏立標ノ南^七链半ニアリ其水深三尋半○此瀨ト南細瀨トノ間ハ中央水道航路ニ當リ其濶約七鏈半水深七尋乃至八尋ナリ

避險標

門司埼ト永福寺ノ松團トヲ一線ニ保視シテ進メハ南細瀨ト釜床瀬ノ兩礁ヲ避ケテ其中間ヲ導クヘシ

野山瀬ハ^八ヶ瀬及高芋瀬

野山瀬ハ金伏立標ノ西^十南^五南約三鏈ニアリ其水深三^七尋北水道ノ南側ニアリ○ハ^八ヶ瀬ハ金伏立標ノ南西^十西四^七鏈ニアリ其水深三尋半ニシテ中央航路ノ北側ニアリ○高芋瀬ハ金伏立標ト野山瀬トノ約中央ニ位シ其水深

二^七尋ニシテ其兩間水深シ

スキアガリ瀬

此礁ハ金伏立標ノ西^七南^三鏈ニ位シ水深五尋ニシテ北水道航路ノ南側ニ當ル

壇浦燈臺

金伏立標ノ西^七鏈ノ處ニ當リ壇浦ノ海濱ニ設置ス○燈臺ハ木造六角形紅白横線ニ塗ル○燈火ハ不動ニシテ南五七度西ヨリ北ヲ廻リ北四一度東迄ハ白色ニシテ北四一度東ヨリ北五一度東迄ハ綠色ヲ以テ門司港外ノ航路ヲ示ス○燈高ハ海面上高五十二呎、晴天光達六浬

諸水道

下之關東口ハ前記ノ諸礁ニ由テ左ノ三水道ニ分カル

北水道

中洲ノ北ニ通スル水道ニシテ其中央ニ於テ深水ヲ連ヌ然レモ中洲ノ東側

ハ四尋乃至五尋以下ノ淺水ヲ以テ航路ヲ横斷ス

中央水道

中洲西浮標ノ西ニアル三尋點灘ノ南即チ蠣辻ノ北ニ通スル水道ニシテ吃水二十呎以下ノ船舶ハ潮時ニ論ナク常ニ之ヲ通過シ得ヘシ

南北道

洲鼻堆ノ南方及蠣辻ノ南方ニアリ五尋以上ノ水深ヲ持続シテ航スルヲ得ヘシト雖航路迂曲スルヲ以テ完全ナル航路標識ヲ備具スルニ非サレハ大船ヲ通ス可カラス然レトモ北水道及中央水道ノ如ク潮流強カラス且比較的水深キヲ以テ吃水二十二呎以下ノ船舶ニアリテハ潮時ニ論ナク之ヲ通過スルヲ得ヘシ

門司埼

部崎ノ西方三二浬ニアリテ其對岸トノ間ハ早鞆瀬戸ト稱シ其可航水道ノ幅ハ約二鏈ナリ○崎端ハ一ノ低山ナレモ直ニ隆起シテ古城山(五六二呎)トナル

早鞆瀬戸ハ潮流速率約七節ニシテ憩潮甚短シ然レビ轉流期ノ前後約三十分間ハ其速率約一節ナリ

海底電信索

門司埼ノ東側ヨリ海峡ノ反對側ニ向ヒ沈設ス其所在ハ兩濱ニ各小屋及立標ヲ設ケ又紅黒縱線塗ノ浮標(竿付)ヲ置キ之ヲ示明ス

火山

平頂ニシテ海面上高八六〇呎此ニ砲臺アリ其頂部ヲ除ク外ハ樹木散點セリ是レ門司埼對面ノ陸岸ニ在テ顯著ノモノナリ

門司港

海圖第四九號ヲ見ヨ

門司半島ノ南西側ニアル泊船處ニシテ其港域ハクワノキ埼ヨリ眞方位北西四鏈ノ處ヨリ一方ハ門司埼頭迄引キタル線ト他方ハ眞方位南ニ向ヒ海岸迄引キタル線トノ以内ニシテ北東、南西ノ長約一浬半幅約六鏈アリト雖前面ニ門司洲横ハリ岸邊ハ濱堆沿布スルヲ以テ可泊地ノ濶ハ二鏈半内外ニ過キ

ス此港頭ニ二端舟港アリ其南港内ニハ扛重機アリ其口ノ近傍ニ暴風標アリ

此港ハ明治二十二年八月開港場トナル其人口約二萬五千三百八十五明治三十一
年十二月調

ニシテ九州鐵道會社、郵船會社、大阪商船會社及日本銀行等ノ各支店アリ海運設備ハ稍整頓ス

交通

本地ハ九州鐵道ト山陽鐵道ト汽船ニ由リ連絡スル所ニシテ該汽船ハ一日三回ノ往復アリ又晝夜馬關ト小汽艇ノ往復アリ其他内外汽船ノ寄港スルモノ多シ

供給品

淡水ハ給水船アリテ容易ニ得ヘシ又糧食品ハ不充分ナルモ馬關ニ於テハ容易ニ辨スヘシ

石炭

石炭ハ港ノ南西部海岸上ニ多量ニ貯蓄セリ明治二十七年ノ一年間石炭輸

出高ハ三十三萬八千四百十六噸ニシテ其價額百二十三萬八千六百圓出入船舶ハ七十一萬三千三百九十九噸ニシテ其内英國船ヲ五十二萬二千二十一噸ナリトス

錨地

門司浦ノ北角ナル柁鼻ヨリクワノキ埼附近マテノ間即チ門司洲ノ南面ヲ以テ最好錨地トス○然レニ錨地部ニハ速率四分三節以下ノ潮流アリテ船首ハ風向ノ如何ニ拘ハラス回旋スルヲ以テ注意ヲ要ス一三頁潮記ノ部
チ參照スペシ

二沈船浮標

門司東浮標ノ南東約一鏈半ノ處ニ沈没セル尾張丸ノ西側ニ鐵造截頭圓錐形綠色浮標ヲ置キ之ヲ示明ス

門司西浮標ノ南テ東^五/_四東^三/_四鏈ノ處ニ沈没セル八重丸ノ北東側ニ鐵造截頭圓錐形綠色浮標ヲ置キ之ヲ示明ス

門司洲

門司町ノ對面ニアリ洲上水深一^三/四尋乃至三尋以下ニシテ柁鼻ノ南西^三/四西二^一/四鏈ノ處ヨリ起リ半鏈乃至一鏈ノ幅ヲ以テ南西ノ方向ニ約六鏈ノ間擴延シ年々尙伸長スルモノ、如シ○此堆ノ最淺點ハ一^三/四尋ニシテ柁鼻ヨリ南西^一/二西四^一/五鏈ノ處ニアリ○門司崎ト串崎トノ一直線(北東^一/二東)ハ此洲ヲ避ケテ其北面ヲ通過スヘシ明治三十三年三月門司洲ハ南方ニ稍擴延ストノ報アリ

門司浮標

門司洲ノ東方端ニ紅色浮標ヲ置キ西方部ニ黑白横線塗浮標ヲ置ク俱ニ鐵造圓錐形ニシテ頂ニ籠球ヲ冠ス
東浮標(紅色)ハ水深三尋ノ處ニ碇置ス是ヨリ赤馬關龜山宮ヲ西^一/二北^三/四北ニ門司崎ノ明神鼻ヲ北々東^一/八東ニ視ル
西浮標(黑白橫線塗)ハ水深三^三/四尋ノ處ニ碇置ス是ヨリ赤馬關龜山宮ヲ北々西^一/四西ニ門司崎ヲ北東^一/八北ニ視ル

下之關港

此港ハ門司港ト相對シ其港域ハ彦島弟子待鼻ヨリ巖流島南端ニ至リ同處ヨリ真方位北東^一/二北ニ引キタル一線以内トス而シテ明治三十二年開港場トナレリ○本港ハ風浪ノ保障ハアルモ泊地狹少且潮流ノ衝ニ當ルヲ以テ大船ノ錨泊ニ可ナラス○市街ハ諸山ノ麓ニ沿ヒ水ニ瀕シテ約二浬ノ間ニ櫛比ス其最モ顯著ナル家屋ハ舊電信局及稅關ナリ此地電信局、測候所、檢疫所、衛戍病院アリ人口ハ約四萬一千三百餘

永福寺松園ニ近ク暴風標アリ

交通^{一〇}頁ヲ參照セヨ

上陸用棧橋一^一所○大艇船百五十隻○港籍ニ屬スル汽船三十一隻
供給品

下之關ニ於テハ總テノ諸品ヲ辨スヘシ○水ハ最モ良質ニシテ多量ナリ船舶ハ重ニ衣裳川ノ水ヲ用ユ○船舶用給水船ハ二十二隻アリ

潮及潮流

場所	朔望高潮		
	大潮升	小潮升	小潮差
部 埼 青 濱	九時五分	十四呪	八三/四呪
舊 門 司	九時十七分	一/四呪	三呪半
竹ノ子島南風泊	十時八分	六呪	二三/四呪
		三呪	一呪
		一/四呪	

潮流ニ關シテ 説明スル高潮時ハ 總テ 舊門司ノモノニ據ル

門司埼附近ニ於テハ 漲潮流即西流ハ 高潮時ノ前二時半ニ始マリ落潮流即ナ 東流ハ 高潮時ノ後二時半ニ始マル故ニ 西流ハ 五時二十分間連流シ 東流ハ 六時四十分間連流ス而シテ 大潮ノ間ハ殆ト憩潮ナシ○ 潮流ノ強速度ハ 大潮ニ 在テハ 約七節 小潮ニ在テハ 三節乃至四節而シテ此強速度ハ 西流ハ 高潮時ノ前約一時、 東流ハ 高潮時ノ後約五時ニ現レ來リ各約三時間持續ス

門司港内ニ於ケル潮流ハ 場所ニヨリ其方向多少ノ差アレモ其漲潮流ハ 海峽中央ノ東流ヨリ西流(漲潮流)ニ變更スル時期ヨリ大約半時ヲ經テ一般ニ偏南流ヲ起シテ重ニ港ノ東部中心ヲ衝キ約一時半乃至二時ヲ經レハ 中央ノ西北流ニ變シ續キテ來ル落潮流ノ終期マテ其流繼續ス

警戒

下之關海峽西口ヨリ強力ノ中央西流ニ逆航シ來リ門司港ニ入ラントスル時 クワノキ鼻附近ニ至レハ忽然順流ニ變スルヲ以テ意外ノ急進ヲ惹起スヘシ 故ニ船舶ハ之ニ對シ決シテ警戒ヲ怠ル可カラス

氣候

左表ハ六年間下之關ニ於テ施セル觀測ノ結果ニ係ル其測候所位置ハ海面上

高一五七呪トス

彦島

下之關海峡ノ西口ニ横ハル一大島ニシテ其形甚不齊ナリ其北端ニ顯著ノ樹山アリ荒打山ト曰フ又其南西五鍾ニ老山アリ高三二八呎圓平ノ禿山ナリ

月 次	晴雨計 平均	寒暖計 平均(華氏)	流行風
一月	3 0.0 2	4 0°. 8	N., N. W.
二月	3 0.0 5	4 0. 3	N. W.
三月	2 9.9 7	4 5. 3	S., S. E.
四月	2 9.8 8	5 3. 8	S. E., E.
五月	2 9.7 8	6 1. 5	S. E.
六月	2 9.7 0	6 8. 2	E.
七月	2 9.7 0	7 6. 0	S. E., S.
八月	2 9.7 1	7 8. 8	E.
九月	2 9.8 0	7 3. 0	N., N.E., E.
十月	2 9.9 3	6 4. 0	E.
十一月	3 0.0 1	5 3. 1	N. W.
十二月	3 0.0 5	4 4. 4	N. W.

下之關海峽ノ西口ニ横ハル一大島ニシテ其形甚不齊ナリ其北端ニ顯著ノ樹山アリ荒打山ト曰フ又其南西五鍾ニ老ノ山アリ高ニ二八呎圓平ノ禿山ナリ

○第一二八六一項(水路告示第一一三八號明治三十三年四月十七日)

海軍海圖第一三二號第六九號(第一三五號第二五〇號第一四三號(第五號(一)(二)第二五九號第三四號(三)第九號第九〇號第一一號第二一六號第九五號(四)日本水路誌第一卷一二二頁同第二卷二九六頁同第三卷一
二五頁二三頁同追補第一(近編)ノ一七頁東洋燈臺表上卷二頁二番同二二頁二三番同二二頁六八番同二六頁
八三番ニ闕係ス

日本內海 南西諸島及東京海灣

燈臺ノ新設及燈色ノ變更

遞信省告示第一五三號及第一五四號(明治三十三年四月十一日官報)ニ據レハ今般日本內海來島海峽中渡島北西端下之關海峽西口竹子島西端臺場鼻及沖繩島那霸港三重城ニ燈臺ヲ建設シ不動白色燈ヲ設ケ執レモ本月二十日以後點火ス又羽根田燈臺ノ燈色ヲ變更ス即チ左ノ如シ

(一)中渡島燈臺

一明弧ハ北三〇度三〇分西ヨリ南八六度西マテ二九六度三〇分間ヲ照ス
一燈高ハ水面上一二六呎ニシテ晴天光達六浬

一燈臺ハ石造圓形白塗ニシテ礎上ノ高二十五呎

燈臺概位(海軍海圖第一三二號ニ據ル)

北緯三四度七分二秒

東經一三二度五九分四四秒

方位ハ磁針ニ取ル其差四度二五分西

(二)臺場鼻燈臺

一明弧ハ北二三度〇分三〇秒西ヨリ南八五度五九分三〇秒西マテ二八九度間ヲ照ス但右明弧ノ内北二〇度〇分三〇秒西ヨリ北六一度五九分三〇秒東マテ八二度間ハ紅光ヲ以テ大砲根、笠瀬、舟瀬トカリ及平瀬ヲ示シ又南四七度四四分三〇秒西ヨリ南七三度一九分三〇秒西マテ二五度三五分間モ紅光ヲ以テ四光尋洲及離藻ヲ示ス

一燈高ハ水面上七十五呎ニシテ晴天光達六浬

一燈臺ハ煉化石造圓形白塗ニシテ礎上ノ高三十呎

燈臺概位

(竹子島ノ北崎端 北三八度三〇分東 燈臺ヨリ(獅子ヶ口角端 南一二度四五分東 距離二鍵)

方位ハ磁針ニ取ル其差四度四〇分西

注意
臺場鼻燈臺ハ數日保持シ得ヘキ構造ナルヲ以テ別ニ看守ヲ置カス故ニ萬一消滅スル時ハ復舊スルニ多少ノ時間ヲ要ス

(三)三重城燈臺

一明弧ハ東ヨリ南一三度西マテ一〇三度間ヲ照ス但右明弧ノ内東ヨリ南五七度東マテ三三度間ハ紅光ヲ以テ唐船口ノ南ニ方ル淺瀬ヲ示シ又南五二度東ヨリ南一三度西マテ六五度間モ紅光ヲ以テ唐船口ノ北東ニ方ル干瀬、自謝加瀬及伊那武瀬等ヲ示ス
一燈高ハ水面上三十呎ニシテ晴天光達六浬
一燈臺ハ煉化石造四角形白塗ニシテ礎上ノ高十二呎

燈臺概位(海軍海圖第二五九號ニ據ル)

北緯二六度一二分二五秒

東經一二七度四〇分三三秒

方位ハ磁針ニ取ル其差二度一五分西

注意

三重城燈臺ハ數日保持シ得ヘキ構造ナルヲ以テ別ニ看守ヲ置カス故ニ萬一消滅スル時ハ復舊スルニ多少ノ時間ヲ要ス

(四)羽根田燈臺

該燈臺ハ從來第四等不動、綠色ノ處今般第五等明暗白色ニ變シ明治三十三年四月二十日ヨリ點火ス但右變更工事中ハ一時第五等不動綠色燈ヲ顯ス

一燈火ハ明間二十三秒暗間七秒ナリ

一其他ハ總テ從前ノ通り

流行風
N., N. W.
N. W.
S., S. E.
S. E., E.
S. E.
E.
S. E., S.
E.
N., N.E., E.
E.
N. W.
N. W.

○島ノ北西部ハ狹長ノ半島ニシテ其最高部ハ八十呎ニ過キス

大山鼻
彦島ノ南西角ニシテ多樹頭ナリ其東ニ近ク嶮峻ノ樹峯アリ高三六七呪大山

ト日フ

彦島ノ北西端ナル多岩ノ低角ニシテ高五十八呎○此角ヨリ南東方九鍾舞子島ニ至ル間ノ海岸ハ樺色ノ岩崖ニシテ屈曲多シ

一ノ端舟水道ヲ隔テ、獅子口直北ニアリ此島ノ北西面ハ二三鍵ノ間海底
險惡ナルカ故ニ船舶ハ相距二鍵以内ニ近ツクヘカラス

竹子島ノ西端臺塲鼻ニ設置ス現今建築工事中ナリ

臺場鼻ノ西方一鏈半以内ニアル淺灘ニシテ東西長一鏈餘其最淺部ハ纏ニ四分三尋ニ過キス其西方ハ水深シ○此最淺部ヨリ南々東約一鏈ニ二尋ノ點灘アリ其間水深シ

福浦

彦島南西濱ニアリ浦内水深僅ニ六呎乃至十二呎ニシテ和船港ニ過キス

小瀬戸

彦島ト陸岸トノ間ヲ迂回スル所ノ瀬戸ニシテ西端ニ於テハ廣僅ニ半鏈水深三尋以上ヲ有スレモ下之關市街附近ノ廣處ニ至レハ水深纏ニ六呎ナリ

巖流島一名船島

彦島ノ東岸ヲ距ル約一鏈半ニアリ北頭ノ高六十二呎東岸ハ赤色ノ岩崖ナリ○島ノ南端ト彦島ノ東角弟子待鼻トノ一線及赤間關稅關トノ一線以内ハ一般ニ淺水地アリ

與治兵衛岩

彦島、山底、鼻ノ東北東四鏈半ニアリ低潮ニ干出スル「四呎、岩上ニ挂燈立標ヲ設ク航路ハ此岩ノ西方ニアリ○此岩ヨリ北東及南西ヘ一鏈ノ間ハ淺水地ニシテ北西^ノ西百二十碼ニ三尋點灘アリ

與治兵衛挂燈立標

立標ハ石造圓形紅色ニ塗ル○燈火ハ不動紅色ニシテ北一六度西ヨリ南七四度西マテヲ照輝ス○燈高ハ高潮面上十九呎、晴天光達六浬

鳴瀬

山底、鼻ヨリ南西約一鏈半ニアル岩礁ニシテ低潮ニ二呎干出ス礁上ニ挂燈立標ヲ設ク其外側三分一鏈ノ間ハ淺水ナリ

鳴瀬挂燈立標

立標ハ石造圓形白色ニ塗ル○燈火ハ不動白色ニシテ南四四度西ヨリ南八六度東マテヲ照輝ス○燈高ハ高潮面上十七呎、晴天光達六浬

粗岩

大山ノ鼻ノ南々西約一鏈ニアル岩ニシテ低潮ニ近ク纔ニ干出ス其岩頭ニ挂燈立標ヲ設ク該立標ヨリ南西方ハ殆ト一鏈南東方ハ約三鏈ノ間淺水ナリ
姐挂燈立標

立標ハ石造圓形黑白橫線ニ塗ル○燈火ハ不動白色ニシテ北八七度西ヨリ南三度東マテヲ照輝ス○燈高ハ高潮面上十九呪、晴天光達六浬

注意

與治兵衛、鳴瀬、姐ノ三柱燈ニハ看守員ヲ置カス萬一消滅スルキハ再點ニ多少ノ時間ヲ要スヘシ

六連出シ

此礁ハ姐立標ヨリ西^三/_四北五鏈即ナ航路ノ南西側ニ位シ南北長約一鏈水深二尋ナリ

大磧根瀨

彥島ノ西方、航路ノ南西側ニ位スル被沙ノ大岩堆ニシテ水深一^三/_四尋乃至三尋即ナ小倉石陂ノ外端ナリ

大磧根瀨

大磧根ノ東側ヲ示明スル此浮標ハ紅色鐵造圓錐形ニシテ籠球ヲ戴ク其位置ハ姐挂燈立標ヨリ約北西八鏈弱ニ當ル

座寄洲

彥島西方航路ノ東側ニアル淺堆ニシテ其航路ニ沿ヘル長約七鏈半其水深二尋乃至五尋ナリ而シテ此堆ト彥島ノ濱堆トノ間ハ一水道ヲ成シ其水深五尋半乃至十尋ナリ

笠瀬

獅子口埼(高五十八呪)ヨリ正南距離八鏈ノ處ニアル岩礁ニシテ其水深一尋ナリ

笠瀬浮標

笠瀬ノ東側ニ近ク設置ス紅色圓錐形浮標ニシテ三角錐形ヲ戴キ海面上高十呪半

舟瀬一名トウリ出シ

獅子ヶ口崎ヨリ南西ノ西ノ西距離六鏈ニアル岩礁ニシテ其水深二ノ尋ナリ
舟瀬浮標一名トウリ出シ

鐵造圓錐形紅塗浮標ニシテ三角錐形ヲ冠ス其位置臺場鼻ヨリ南西ノ南六ノ尋
鏈水深五尋半ノ處ニアリ

片瀬

臺場鼻ヨリ西ノ北一浬半鏈ニアル岩礁ニシテ五尋界端ニ位シ其水深三ノ尋ナリ
ナリ

六連島

竹子島臺場鼻ノ北方約一浬三鏈ニ在リ島嶺臺地ヲ成シ其上ニ顯著ナル二團ノ叢林アリ其林頭ハ海面上高三九八呎○船隻己ニ筑前大島ヲ經過スル後ハ六連島ヲ約東ノ北ニ認メ得ヘシ

六連島燈臺

島ノ東角ニ設置ス○圓形御影石造○第四等不動白色○明弧ハ南三六度東ヨリ南及西ヲ廻リ北一六度東マテヲ照輝ス○燈高ハ海面上八十九呎、晴天光達十五浬

該燈ノ明弧界南三六度東ノ一線ハ藍島ノ北方ニアル淺灘ノ東方約七鏈半ノ地ニ導クヘシ

四尋半礁

和合良島南端ヨリ北東ノ東五ノ鏈、六連島最近角ヲ距ル二ノ鏈ノ處ニ位スル點灘ニシテ其外側ハ六尋乃至九尋ノ水深アリ

小六連島

六連島ノ南西ニ位シ馬島、鐘崎島、和合良島、片島、及數嶼、數岩ヨリ成ル○此諸島嶼ノ高ハ約七十呎乃至八十呎ニ出テス○和合良ノ南角ヨリ東ノ南ノ南殆ト一鏈ノ處ニ水深一ノ尋ノ岩礁アリ是ヨリ五尋界線ハ南ノ東四鏈半ノ間斗出ス

沖ノ北ベラ

此礁ハ六連島燈臺ノ北^テ東六鏈強ニ位スル五尋點灘ニシテ其四周至近ハ六尋乃至八尋ノ水深アリ

傳兵衛礁

片島頂ヨリ正北殆ト二鏈半ノ處ニアル點灘ニシテ五尋界端ニ位シ其水深二尋ナリ

錨地

六連島ノ近傍ニ於テ假泊ヲ要スル等ノ場合ニハ六連島ノ東面黒崎ノ南西面ニ於テ水深七尋乃至八尋ノ處ヲ可トス但陸岸附近ハ淺灘アルヲ以テ宜ク距岸一浬以内ニ近ツクヘカラス

藍島

六連ノ北西^テ西ニアリ平低島ニシテ林樹之ヲ蔽ヒ高僅ニ八十四呎○島ノ北角附近ニ二小嶼アリ其高共ニ三十呎ニシテ低潮ニハ岩陂ニ由テ本島ト殆ト

連ナル○該西嶼ノ北方三鏈ノ處ニ廣瀬ト稱シ高潮ニ沒スル暗礁アリ

大文字岩及沖ノクリ

大文字岩ハ廣瀬ノ東方二鏈ニアリ高五呎○此岩ノ北々西^{ヨリ}西約五鏈ニ沖ノクリアリ是レ藍島北方最外ノ危険ナリ

大文字挂燈立標

大文字岩上ニ設置ス○標柱ハ石造圓錐形黑白横線ニ塗ル○燈火ハ不動白色○明弧ハ北二六度西ヨリ西及南ヲ廻リ北三五度東迄ノ間ニシテ内北二六度西ヨリ北四二度西迄一六度間ハ紅光ヲ以テコシキ岩ヲ示ス○燈高ハ高潮面上四十五呎半晴天光達六浬

此燈臺ヨリ白洲燈臺ハ南西^{ヨリ}南ニ當ル

コシキ岩

藍島南角ノ東北東七鏈ノ處ニアル高十二呎ノ方形小岩ナリ此岩ヨリ南方ヘ一鏈ノ間礁脈斗出シ北西方へ五鏈間ハマイガ瀬等アリ低潮ニ洗フ○コシ

キ岩ノ南方四鍾ノ間ハ淺水ナリ ○此岩ト藍島ノ間ハ航スヘカラス而シテ
藍島ト白洲ノ間ハ吃水十二呎以下ノ船ニ限リ航通スルヲ得

白洲

藍島ノ西南西ニアル離礁ニシテ大約南北五鍾幅四鍾其中心ハ礫沙ノ小露
堆ニシテ長三八〇呎、幅七十五呎、高ハ海面上數呎ニシテ其上ハ燈臺及旗竿、
東側ニ小棧橋アリ

白洲燈臺

白洲ノ露堆上ニ設置ス ○燈塔ハ上部鐵造下部石造、圓形ニシテ黑白橫線ニ
塗ル ○燈火ハ第五等白色回轉ニシテ十五秒時毎ニ一閃光ヲ發ス ○明弧ハ全
周ヲ照輝ス ○燈高ハ高潮面上五十呎、晴天光達十浬

注意

該燈火ハ數十日保持シ得ヘキ構造ナルヲ以テ別ニ看守ヲ置カス故ニ萬一燈火消滅又ハ回轉停
止セルトキハ復舊スルニ多少ノ時間ヲ要ス

白島

女島男島ノ二嶼ヨリ成リ白洲燈臺ノ西北西約八浬ニアリ ○北嶼ナル男島ハ
茂樹アリ東嶺ハ南部ニ在テ高四四二呎 ○島ノ北角ハ絶壁ニシテ高三八〇呎
而シテ南角ヨリ南方四鍾ノ間淺灘斗出ス ○女島ハ東部ニ尖峯アリ高二九〇
呎西角ハ斷崖ニシテ水深シ

ハンドウ岩及柱岩

ハンドウ岩ハ男島北角ノ東端ヨリ北一鍾半ニアリ高一二六呎 柱岩ハ其間
ニアリ高八十五呎直立筈ノ如シ

コシキ礁

女島西端ノ南方約四鍾ニアル暗礁ニシテ最淺處ハ一尋半ナリ

女島礁脈

女島ノ東角ヨリ南東ニ向ヒ一浬半ノ間ニ伸出スル礁脉ナリ此南端ヲソネ
ト稱シ其水深ハ二尋ナリ ○白洲燈臺ヨリ藍島ノ南端ヲ南方ニ出シ視レ
ハ此礁ノ南方ニ導ク

イサキ瀬

女島ノ尖峯ヨリ南千束ニ東三浬ニアル岩灘ニシテ其水深一尋乃至二尋○灘上常ニ強キ湍潮アリ

沖ノソネ

女島尖峯ノ南々東^{ノル}東約三浬八鍾ニアル孤礁ニシテ其水深一尋乃至二尋

丸瀬

女島尖峯ノ南東千束ニ南約五浬半ノ處ニアル出没岩ニシテ南方ニ二鍾北方ニ六鍾礁脈擴延ス

アン瀬

丸瀬ノ東方約一浬ニアル岩灘ニシテ其最高岩ハ高潮面上三呎是ヨリ北方ニ六鍾南方ニ二鍾礁脈擴延ス

名古屋埼

彦島南端ノ西方約四浬ニアル筑前海岸ノ低沙角ニシテ角上一帶ノ松林アリ

○此角ノ附近ニ高二呎ノ小露岩アリ而シテ角傍一帶水甚淺シ
此埼ノ内方四^ノ浬ニ帆檣山アリ高尖峯(一、〇三一呎)ニシテ頗顯著ナリ但北西方ヨリ望ムキハ雙頂ヲ顯ス

若松港

名古屋埼ノ南西方ニアリ港内水淺ク五百噸以上吃水十四呎以上ノ船舶ヲ容ル、^ノ難シ前年來港口ニ長大ナル防波堤ヲ設ケ修築中ナリ○近時洞海東側ニ官立製鐵所ノ設置アリ○若松邑ハ豐筑鐵道ノ基點トナリ著名ノ石炭輸出地ニシテ各種船舶常ニ輻湊セリ

明治三十年内國船舶出入ノ噸數ハ汽帆(西洋形)合シテ七萬八千七百七十二噸外ニ和船一萬百五十九艘小廻船六萬九千二百七十六艘
船舶用給水船八艘飲用井十六ヶ所アリ

小倉町

彦島ノ南西ニ當ル九州ノ海岸ニ於テ蒲生川ヲ挾ミ布置セル大邑ニシテ人口

二萬五千餘福岡縣企救郡役所アリ

小倉石陂

沙及岩ヨリ成レル大淺灘ニシテ處々ニ小淺灘ヲ有シ彦島ノ南西方ナル九州ノ低濱ヨリ擴延スルコ一浬乃至二浬其外界ニ至リ水深増シテ三尋トナル而シテ此石陂ハ淺水ヲ以テ白洲マテ連接ス

下之關海峽東方ヨリノ針路法

北水道針路法

部埼燈臺ヲ北西ノ西ニ望ミ（夜間ハ該燈ノ白光ヲ全方位ニ望ム）其針路ヲ保ナテ進航シ滿珠島ノ東端ヲ北ノ西ニ望ム處ニ至リ針路ヲ變シ該島ノ東端ヲ其方向ニ保ナテ進ムヘシ然ルヰハ水深四メートル尋以上ノ區ヲ馳セテ中洲ノ東方ヲ過クヘシ

金伏立標ト甲山早鞆瀬戸北岸圓山ニシテ頂上枯木アリトナ一線ニ視ルノ地ヨリ火山ニ向フヘク針路ヲ左轉シテ火山高點ト鷹羽山西頂ノ南肩トナ一線ニ視第一針路ヲ西三メートル南（南對景針路）

八二度西）ニ保ナテ進ムヘシ而シテ金伏立標ト門司埼上ノ古城山頭信號竿アリトナ一線ニ視ントスル處ヨリ早鞆瀬戸ノ中央ニ向フヘク針路ヲ左轉シテ觀音崎町永福寺ノ松團其南側ニ暴風標アリト彦島二〇四呎山ノ直南側ニアル樹山頂トナ一線南西ノ西（南六二一度西）ニ視ル處第二對景ニ到リ其線上ヲ保ナテ進ミ前記鷹羽山ノ西頂（高三二四呎）ヲ右舷正横ニ視ルニ至レハ適宜ニ早鞆瀬戸ニ向進スヘシ然ルヰハ能ク諸險ヲ避ケテ通過シ得ヘシ此針路ハ大約英艦インペリエーブル廿八呎七吋ノ吃水ヲ以テ通過シタル航跡ニ近シ北水道ハ潮流激烈ナルヲ以テ夜間ハ通航セサルヲ善トス○吃水十八呎以上ノ船舶ニシテ日没ニ際シ部埼ニ到着シタルヰハ天明ヲ待ツニ如カス

中央水道針路法

部埼燈臺ノ北東約半浬ノ處ヨリ中洲西浮標ト飛洲浮標トノ中央若クハ串埼ニ向テ進ミ金伏挂燈立標ヨリ壇浦燈臺ヲ西ニ開キ之ヲ西ノ北ニ望ミテ其線上ヲ馳セ而シテ門司埼ト永福寺ノ松團トナ一線（西ノ南ノ南）ニ視ルノ地ニ到レハ門司埼ニ向ケ其線上ヲ航シ壇浦燈臺ヲ北西ノ西（北五三度西）ニ

望ム處ヨリ漸々海峽ノ中央ニ進ムヘシ

門司埼以西針路法

門司埼ヲ距離約一鏈半ニテ繞航セシ後ハ南西ノ南(南四二度西)ノ針路ニテ巖流島ノ南端ニ向テ進ミ日和山ノ著松ヲ北々西ノ西(北一八度西)ニ視ルキ針路ヲ南々西ノ西(南二七度西)ニ變スヘシ然ルキハ水深七尋乃至十尋ノ地ヲ經テ巖流島ノ南端ヲ距ル約二鏈、與次兵衛挂燈立標ヲ距ル一鏈半ノ處ヲ過キ山底ノ鼻ノ對面ニ至ルヘシ○此針路ニテ鳴瀬挂燈立標ト金弦岬ト一直線(西ノ北)ニ視ル處ニ至リ針路ヲ南西ノ西(南六〇度西)ニ變シ山底ノ鼻ト鳴瀬挂燈立標ト一直線(北東ノ北)ニ視ルノ地ニ至リ針路ヲ西ノ北(北八〇度西)ニ變シ彦島ヨリ距離三鏈以上ヲ保ナ進ムヘシ英艦「インメリカ」ノ兩標間ノ經度ニ據レハ粗、鳴瀬兩標ノ南方ハ該兩標間ノ角度ヲ八〇度以上保ナ行クヲ要ス而シテ獅子口ト鐘崎島ノ東端トヲ一直線(北々西ノ西)ニ見タルキ直ニ針路ヲ其線上ニ取テ進ムヘシ然ルキハ大磯根紅色浮標ノ東方半鏈ノ處ヲ過キ大磯根ト塵寄洲ノ中間ニ到ルヘシ夫ヨリ大山ノ鼻ト桐谷山圓錐峯一、二四四呎

トノ一線(南東ノ南)中ニ入り之ヲ船尾ニ保視シテ進メハ笠瀬紅色浮標ノ東方ヲ過キ獅子口ノ西方約三鏈半ノ處ニ導クヘシ而シテ六連島燈臺ヲ北ノ東(北六度東)ニ視ル時針路ヲ其方向ニ變シテ進メハ竹子島西面ノ險惡地ノ十分ニ避ケ得ヘシ○竹子島ヲ過クル迄ハ決シテ六連島燈臺ヲ北ニ望ムヘカラス

六連島ノ北端ハ約七鏈ヲ離レテ繞航シ然後北西方ニ向ヒ六連島燈臺ヲ船尾南東ノ南(南三七度東)ニ保視シテ進ムヘシ此示導線ハ藍島北面ノ諸險ヲ避けテ大文字挂燈ノ北方約一浬ノ地ニ到ルヘシ

六連島西方水道針路法

六連島ノ西方ヲ經過セント欲セハ前記セル大山ノ鼻ト桐谷山トノ一直線上ノ針路ヲ繼續シテ藍島ノ方ヘ向ヒ片島ノ北端ト六連島ノ北端トヲ直線(北東ノ東)ニ視ル時直ニ針路ヲ北ノ東(北一一度東)ニ變シコシキ岩ノ東方約半浬ノ處ヲ過クヘシ而シテ六連島ノ燈臺ヲ南東ノ南(南三七度東)ニ視ル處ニ

艦シタルキ針路ヲ變シ此線ヲ船尾ニ保視シテ進ムヘシ

白洲南方水道針路法

輕吃水ノ船隻ハ前記大山、鼻ト桐ヶ谷山トノ一直線ヲ船尾ニ保視シテ藍ノ島ノ方ニ向ヒ己ニ馬島ノ南角ヲ東^{三/四}南(南八一度東)ニ視ルニ至ラハ針路ヲ西北(北八二度西)ニ變シ該角ヲ東^{三/四}南(南八一度東)ニ背視シテ進行セハ大低潮ニ於テ水深十五呎以上ノ堆上ヲ經テ白洲燈臺ノ南方約九鏈、女島ノ南方一浬半ニアルソ子礁ノ南方四鏈ノ處ヲ過キ男島ノ頂ヲ北テ東(北一一度東)ニ視ルニ至ラハ西^{三/四}南(南八四度西)ノ針路ニテ白洲燈臺ヲ船尾ニ保ナ進ムヘシ然ルキハ十五浬ニシテ筑前ノ大島ニ達スヘシ

下之關海峽西口ヨリノ針路法

西口ヨリ下之關ニ航スル者ハ筑前大島ノ北約一浬ノ處ヲ過キ東テ北^{三/四}北(北七三度東)ノ針路ニテ男島ニ向ヒ此島ヲ半浬ノ距離ニテ經過シ夫ヨリ東ノ進路ヲ取り藍島北部ノ諸險ヲ避クル爲メ六連島ノ燈臺ヲ南東^{三/四}南(南三七

度東)ニ開視スルマテ(夜間ハ全燈光ヲ視ルマテ)ハ男島ノ北角ヲ西以北ニ望マサル様注意シテ進ムヘシ

白洲ノ南方水道針路法

白洲南方ノ水道ヲ通過スルニハ筑前大島ヲ約一浬ノ距離ニテ航過シ夫ヨリ東^{三/四}北(北八四度東)ノ針路ニテ陸岸ト女島トノ中間ニ向ヒ女島ノ東端ヨリ南方一浬半ニアルソ子礁ヲ避クル爲メ白洲燈光ノ見ユルヲ待ツテ之ヲ東^{三/四}北(北八四度東)ニ保ツヘシ而シテ男島ノ頂ヲ北ニ望ムニ至ラハ馬島ノ南端ニ向ヒ針路ヲ東^{三/四}南(南八一度東)ニ變シテ進ムヘシ然ルキハ白洲燈臺ノ南方約九鏈ノ處ヲ過キ大低潮ニテ水深十五呎以上ノ堆上ヲ過クヘシ而シテ片島ノ北端ト六連島ノ北端トヲ直線(北東テ東)ニ視ルニ至ラハ針路ヲ南東^{三/四}南(南四一度東)ニ變シテ大山、鼻ト桐ヶ谷山トノ一線上ヲ馳セ夫ヨリ左記ノ針路ニ從フヘシ

藍島ノ北方ヲ經テ下之關海峽ヲ通過スルニハ大文字挂燈立標ヲ經過セシ

後六連島ノ燈臺ヲ南東^{三/四}南(南三七度東)ニ望ミタルキ針路ヲ其方向ニ定メ
進行スベシ六連嶼ノ北端ハ相距ル約七鏈ニテ繞リ其東面ニ出テ夫ヨリ六連
島燈臺ヲ北^一東(北六度東)ト北^二東(北一四度東)トノ間ニ保視シテ竹ノ
子島ト鐘崎嶼トノ間ヲ過キ大山ノ鼻ト桐谷山トノ一線(南東^{三/八}南)ニ達シタ
ルキ此方向ニ進ムヘシ然ルキハ獅子^ク口ノ西方約三鏈半ノ處及笠瀨浮標ノ
東方ヲ經過シ大磧根浮標ノ對面ニ達スヘシ夫ヨリ獅子^ク口ト鐘崎嶼ノ東端
トノ一線(北々西^{一/四}西)ヲ船尾ニ保視シ船首ヲ南々東^{一/四}東(南二五度東)ニ向ケ
進ムキハ俎桂燈立標ノ西方ニ二鏈弱ノ處ヲ經過スヘシ尙少シク進ミ笠頭山^{カサガシラ}
東側上ニアリ高一七三呎ト山底ノ鼻トニ一線(東^{一/四}北^{三/八}北)ニ視ルキ針路ヲ東^{一/八}南(南八〇度東)
ニ變シ<sup>英艦「インペリオ」ノ経験ニ據レハ俎桂^{ツクイ}、鳴瀬^{ナガシ}兩標ノ南方ハ山底ノ鼻ト鳴瀬挂燈立標トニ一線
(北東^{一/八}北)ニ見ルキ針路ヲ北東^{一/八}東(北六〇度東)ニ變シ巖流嶼南端ト
觀音崎町上ノ松園ト一線(約北^一東^{三/八}東)ニ視ルキ針路ヲ北々東^{一/八}東(北二七度
東)ニ變シ日和山ノ著松ヲ北々西^{一/四}西(北二八度西)ニ視ルトキ針路ヲ北東^{一/四}</sup>

北(北四二度東)ニ變シテ早鞆瀨戸ノ正中ニ向進スヘシ

北水道針路法

門司埼ヲ經過セシ後ハ金伏立標ト其北西方ノ陸岸トノ中間即^ナ該立標ノ北
西約二鏈ノ地ニ向テ進ミ之ヲ過クレハ滿珠島ニ向ヒ約東北東ノ針路ニテ進
ミ火^ク山ガ西^{三/四}南(南八一度西)ニ當リタルキ之ヲ船尾ニ保視シテ東^{三/八}北(北八
二度東)ニ轉進スヘシ而シテ滿殊島ノ東端ヲ北^二西ニ視ルキ又之ヲ船尾ニ
保ナ南^一東ニ轉進スヘシ而シテ部埼燈臺カ北西^{一/四}西(北五一度西)ニ當リタ
ルキ此方向ヲ船尾ニ保視シテ周防灘ニ出ツヘシ

中央水道針路法

此水道ハ浮標ヲ以テ明示サル、カ故ニ吃水適度ノ船舶ハ常ニ之ヲ取ル○門
司埼ヲ經過スル後ハ該埼ト永福寺ノ松園トノ一線(西^一南^{三/四}南)ヲ船尾ニ保
ナテ進ミ金伏立標ノ對面ニ至リタラハ針路ヲ東^一北(北八四度東)ニ變シ中
洲東端ノ黒色浮標ニ向テ進ミ部埼燈臺ヲ南東^一南(南三四度東)ニ視ルキ針

6830

3

8617

三十八

路ヲ南東た東(南五一度東)ニ轉シテ部埼ノ對面迄進ミ夫ヨリ轉シテ部埼燈臺ヲ北西た西(北五一度西)ニ望ムノ位置ニ到リ其方位ニ該燈臺ヲ背視シテ南東た東(南五一度東)ニ向進スヘシ○但夜間ハ金伏挂燈ヲ經過シタル後ハ該挂燈ヨリ壇浦燈臺ヲ西ニ開キテ之ヲ西ハ北(北八九度西)ニ視ルノ地ヨリ此準線ヲ船尾ニ保視シテ進ミ部埼燈光ヲ南東た東(南五六度東)ニ望ム處ヨリ前記ノ針路ニ從フヘシ

警戒

此海峽ハ己ニ記セシ如ク潮流猛激ヲ極ムルヲ以テ船舶ハ航泊共ニ屢々進退ニ窮シ不慮ノ害ヲ招クコアリ故ニ此海峽ニ於テハ潮ニ對シ特ニ細密ノ豫戒ヲ要スヘシ

日本水路誌第三卷追補第一終

明治三十三年四月十三日印刷
明治三十三年四月十六日發行



發行者 水路部

東京市京橋區弓町廿四番地
三協合資會社

印刷者

橘

磯

吉

販賣所

日本郵船株式會社

東京市麹町區有樂町一丁目一番地



終

